

# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

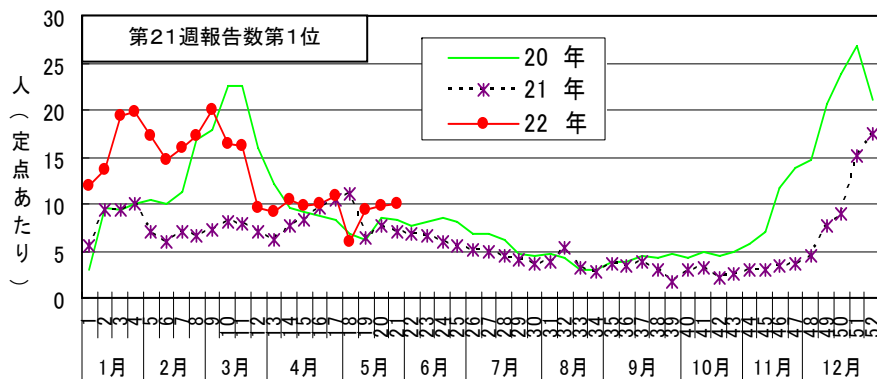
平成22年5月24日（月）～5月30日（日）〔平成22年第21週〕の感染症発生状況

第21週で報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 水痘 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

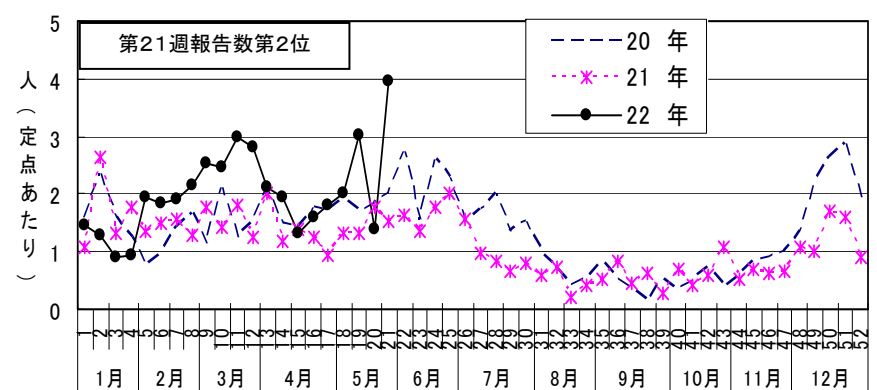
感染性胃腸炎が定点あたり10.06人と前週（9.69人）に比較して患者数はやや増加しております。

水痘は定点あたり3.97人と前週（1.41人）に比較して大幅に増加しています。水痘の流行発生注意報基準値（定点あたり4人）に極めて近いレベルとなっており、特に高津区においては報告数が多く、定点あたり13.20人で流行警報基準値（定点あたり7人）を大幅に超えています。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



水痘発生状況(3年間)

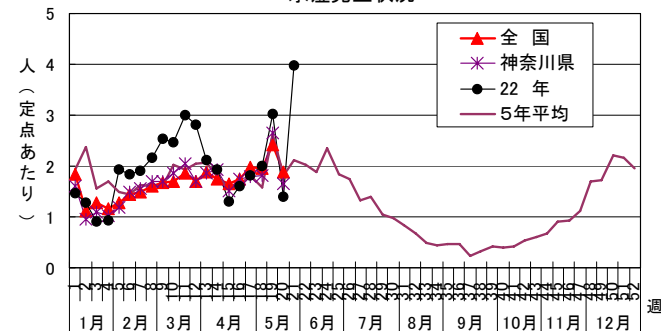


## 水痘の報告が急増しています！！

川崎市内において、第21週に水痘（「みずぼうそう」とも呼ばれます）の報告数が、流行発生注意報基準値である定点あたり4人に近いレベルとなっています。さらに、市内過去10年間の同時期で比べると、今年が最も多い報告数となっていますので注意しましょう。

水痘中のウイルスを含む飛沫や飛沫核による空気感染をおこします。感染力は麻疹に次いで強く、潜伏期間（2～3週間）を経過した後、軽い発熱・倦怠感・赤い発疹等の症状がでます。発疹（お腹、背中、顔や毛髪部に発疹数200～300もしくはそれ以上）は水疱となり急激に全身に広がります。水疱は3日程度で乾燥し、黒褐色のかさぶたとなります。細菌性の2次感染をおこさなければ、通常は痕（あと）が残りません。健康な小児では、一般に予後・経過は良好です。

水痘発生状況



水痘以外でも夏かぜ（特に手足口病やヘルパンギーナ）の報告数も増加しています。これから流行期に入りますので気をつけましょう！！

